

勢和小学校だより

明日も行きたくなる勢和小

～楽しく笑って過ごせるように、目標に向かってあきらめず、やって、考え、工夫しよう～



発行日：令和8年10月9日 第11号

子どもたち同士の授業参観



よりよい授業を自分たちで築いていくことをねらいとして、子どもたちが他の学年やクラスの授業を参観しました。

上の写真は、5年生が6年生の授業を参観している様子です。参観した5年生の人からは、

○人の話を聴いているときに、うなずくなど反応しているところがすごい。

○ノートに字を書くスピードが速くて、まねしたい。

などの感想が聞かれました。

一方、5年生の授業を参観した6年2組の人からは、

○先生は助言するだけで、児童が主役になって授業を進めていることに驚いた。

○机の上が整理されていて、落ち着いて授業をしている。

などの感想が聞かれました。

友達の「分からない」「困った」という気持ちに寄り添いながら、一緒になって課題の解決に向かう。そんな授業を、子どもたちと共に築いていきます。

「いじめを見たらどうする？」 ～3年生有志がポスター作成～



いじめを見たら先生や大人の
人に言おう。

注意することができるのなら注意しよう。

いっしょになって悪口を言っちゃダメだよ。

3年生の小林来絃(こばやし こいと)さんから、自分で作成した「いじめ防止」のポスターを校舎内に掲示してほしいと申し出がありました。2年生のときに友達の山田弥依(やまだ やえ)さんが描きたいじめ防止ポスターに共感し、自分も描いてみようと思ったそうです。

ポスターには、3人の人が友達の容姿について悪口を言っている場面が描かれています。

いじめを見たときに傍観者にならず、「いじめを止める」「いじめから守る」ために、自分から行動してポスターを描いてくれた来絃さん。その思いと行動が、とても素敵です。

「これってどうなの？」から始まる行動

夏休み明けの全校集会で、「これってどうなの？」と感じたことがあれば、そのままにせず、みんなで考え、工夫し、行動してほしいという話を子どもたちにしました。

その後の子どもたちの様子を見ていると、「これってどうなの?」と感じたことを、自分なりに考え、行動に移している姿が見られます。

友達のいじめ防止ポスターに共感し、自分もいじめをなくしたいという思いからポスターを描き、校舎内に掲示してほしいと申し出てくれたこと。

遊びの中でトラブルが起きたときに、そのままやり過ごすのではなく、「友達が困

っているので止めたけど、みんなでもう一度話し合いたい」と先生に相談した人たち。

平和学習をきっかけに、「実際に千羽鶴を折って広島に送ろう」と考え、行動しようとしている5年生。

他にも子どもたちの素敵な姿がありますが、いずれも誰かに言われたから行動したのではなく、「これってどうなの?」「こうしたい」と感じたことを、自分なりに考え、次の行動につなげた姿です。

「自分には関係ない」と見過ごすのではなく、気づき、考え、工夫し、行動する。その一人一人の小さな一歩が、みんなにとって過ごしやすい学校をつくっていきます。

前期を終える今、こうした子どもたちの姿をとてもうれしく思います。後期も、「これってどうなの?」を大切にしながら、子どもたちと一緒に、よりよい勢和小学校をつくっていきたいと思います。

